



馬の学校

# 馬の学校通信

2015. 12 vol.60

発行 馬の学校

事務局 〒468-0007 愛知県名古屋市長区植田本町 3-1105-302 TEL/FAX:052-805-2920

E-mail : mine@horseschool.org ホームページ : http://www.horseschool.org



アンケートへのご協力、

ありがとうございました

今年馬の学校は 15 周年を迎え、これまでのプログラムを振り返り、今後に生かしていくために、2011 年度以前の参加者（ウマキャンプのみ）、および保護者の方を対象に、アンケートのご協力をお願いしておりました。

これまで、プログラム終了後にアンケートをお願いしておりましたが、参加から年月が経過した今、改めて振り返っていただき、皆様の感じておられることを聞かせていただきたいとの思いからでした。ご回答いただいたアンケートを読ませていただき、参加いただいた時のことをとても懐かしく思い出しました。ご回答いただいた内容はとてもありがたく、ぜひ今後のよりよい活動に生かしていきたいと思っております。また近況などをお教えいただけただけでも嬉しく、私自身にとりまして、活動を続けていく大きな励みとなりました。

ご回答いただいた内容の一部をご紹介します。

<プログラムに参加しての変化>

- ・自分のしたいことを言えるようになった
- ・自分自身や人に対して、受け入れられるところが持てるようになった
- ・性格的に臆病であったが、少し前向きとなり成長した。

<当時の体験が、その後の生活に影響を与えていると感じること>

- ・物事に何かチャレンジするときの判断基準になっていると思う。
- ・家族のつながりを思う時に、必ず思い出します。
- ・馬を通して、信じられる人たちに会ったことが心の中の何かになっているのではないかと思います。
- ・自分の思いややりたいことを、馬との中で見つけられることができ、また自信を持てる場となった。

<馬はどんな存在か？（ウマキャンプ参加者）>

- ・馬は言葉を使わない先生
- ・心のよりどころ

\*アンケートの回答は来年3月まで受け付けております。引き続き、ご協力お願いいたします。



秋のプログラム 活動報告



馬とのふれあいプログラム

（ぐりん・はあと 11/21）

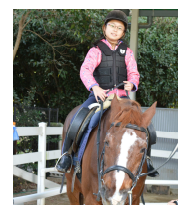
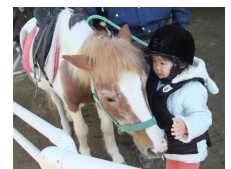
心地よい秋晴れの下、3名の参加でのんびりといきました。子どもたちの年齢（3歳、5歳、12歳）に応じて、柿畑の中をお散歩、合図を出す、1人で手綱を持つ、などのチャレンジをしました。



馬とのふれあいプログラム

（服部緑地乗馬センター 12/5・6）

12月5日は3歳～小学2年生まで6名の参加、6日は小学4年生と高校1年生の2名の参加で行いました。5日は馬小屋掃除がボロ取り競争になったり、大きな馬にドキドキしながらブラシをかけました。6日は落ち着いた雰囲気ですっきりゆっくり馬との時間を楽しみました。





## 馬のおもちゃ⑩ シグゾーパズル

娘のこの秋のブームはパズルでした。もちろん馬の絵のパズルを用意。ドイツのラベンスパーガー社のもので、最初は絵の中の一部がパズルになっているものからやってみて、次に38ピースのシグゾーパズルへ。初めのうちは、こちらがはめるところを指さしながら行っていたのですが、今では全部自分でできるようになりました。でも全く一人ではつまらないようで、「見てて〜」と言われます。ただ・・・お出かけ前にパズルが始まると、



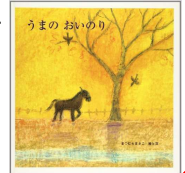
大変です。

## 馬のおもちゃ⑪ おすすめの本

『うまのおいのり』 至高社（国際版絵本）

まつむらまさこ 絵と文

スイスに伝わる「愛馬訓」と呼ばれる、馬から新しい飼い主へのメッセージを訳して創られた絵本。優しいタッチの絵と共に、馬のお祈りを伝えてくれます。「わたしの いちばんの おねがいは さいごまで あなたの ともだちで いることです」ふれあいプログラムで読んだところ、小さな子どもたちもじっと聞き入っていました。馬のお祈りがたくさんの人に届きますように。



## 私の出逢った馬たち (2) ピーク その1

大学4年生になる前の春休み、友人たちは就職活動を始めていました。住居学科だったため、多くの人は建築関連の就職を目指していました。私はといえば小須田牧場のファームステイに通った結果、馬にかかわる仕事に就きたいと思うようになっていました。その気持ちが本当なのか試そうと思い、春休み全てを使ってファームステイに行き、その中で「調教」にかかわらせてもらうことにしました。自分なりの「就職試験」でした。

その時に出逢った馬が「ピーク」でした。元競走馬のサラブレッド、名前は峯崎の「峯」から「ピーク」となりました。それまで小須田牧場でいろいろな馬たちに接してきましたが、みんな調教の行き届いたおとなしい馬たちばかり。競馬で早く走ることしか教えられていない馬に接するのは初めてで、ドキドキしっぱなしでした。

そしてよいよ初乗馬。他の馬に先導してもらって、丸馬場で乗りました。初めのうちは馬場の内側に入ってきたり、引っ張られたり……。でも「そんなことは当たり前と思っていなければならない。馬がわかるようにしてあげるべき」とオーナーに言われました。たとえば引っ張るからといって、ずっと手綱を引っ張り続けると馬も嫌になってくるから、うまくできているときはちょっとゆるめてあげる。そうやって、馬に「なるほど！」と思わせるのだと。いろいろ教えてもらいながらやっていると、短い時間でもはじめと終わりでは、馬の様子が変わってくるのがわかりました。(続く)



## 編集後記

この秋は岐阜県本巣市での新しいプログラムも開始し、特に小さい子どもたちの参加が多くなりました。子どもたちは馬の大きさにちょっぴりドキドキしながらも、少しずつ馬との距離を縮め、馬と仲良くなっていきました。そして、子どもたちにとってポロ（馬のうんち）は宝物！競い合うように見つけては、喜んで取る姿が、とても微笑ましかったです。小さい頃から自然に馬と親しめるお手伝いができれば、と思います。

娘はもうすぐ3歳、この秋ごろから一気に話すようになり、にぎやかな毎日です。11月には再度小須田牧場に行き、馬との時間を楽しんでできました。前回の訪問から3か月経っても馬の名前はすべて覚えており、他の牧場に行ってしまった馬に思いを馳せ、ケガしていた馬の回復を喜んでいました。そして写真を見ては、「また行きたい！」と言い、娘にとって小須田牧場の馬たちは特別な存在のようです。(峯崎 友香理)

